

研究科創立30周年に寄せて

研究科長 加藤 寧



東北大学大学院情報科学研究科は1993年に東北大学で最初の独立研究科の一つとして創設され今年で30周年を迎えました。30年間の間、本研究科では文理融合の理念を推進し様々な分野において世界をリードする優れた研究業績を挙げると共にこれまで3,952名の修士学位および926名の博士学位を授与し、学術の発展と産業技術の振興を支える卓越な人材を輩出してきました。

研究科本館の正面玄関に30周年を記念したロゴマークとリニューアされた研究科のロゴマークが大きく飾られ、お祝いムード一色の中、7月の末に文部科学省から申請していた「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金」が採択されたという嬉しいニュースが舞い込み、この節目の年に花を添えることになりました。本プログラムは文部科学省が高度情報専門人材の育成に向けて、国公私立の大学及び高専を支援し、大学においては情報系分野の大学院定員増を求め、優れた実績に基づくこれからの取り組みに対し支援するものです。この度の申請は、工学部に「情報特別コース」を設置し、令和6年度から40名の定員増を実施した上、この学部の定員増に対応し、本研究科と工学研究科が同じく令和6年度から博士前期課程を30名ずつ、そして博士後期課程を3名ずつ増やします。申請にあたり、工学部をはじめ、本館や関連する方々から多大なるご支援を頂いたことに深く感謝を申し上げ、心から敬意を表する次第です。

一昨年度に行われた全学教育の改革により、研究科の文系の分野を中心に全学教育における授業担当科目数と入試担当業務の大幅な削減が実現され、研究教育の環境が大幅に改善されました。また、研究科発足当時から続いていた全学授業の担当科目と個別分野の「紐付け」という問題も解消され、人事の機動性が大幅に向上

しました。そして今回は工学部に所属する分野が定員増となり、優秀な学生の確保や研究力の更なる向上が期待されます。また、今回獲得した予算の一部と研究科の独自財源、本部からの支援等を合わせ、現在の情報科学研究科本館の隣接地に「情報教育館(仮称)」を新設し、研究教育環境の一層の充実が図られる予定です。

2025年1月実施の大学入学共通テストから新科目「情報I」が設定されています。当面の間、「情報人気」が増すことがあっても衰えることはないものと思われます。「情報特別コース」の設置により情報を学びたい学生達を惹きつけ確実に本学に来て頂く第一歩として大きな効果が見込まれます。一方、他大学との差別化が今後の課題になると考えております。この課題の解決には我々の情報科学研究科の特徴である文理融合型の理念が威力を発揮すると考えております。文理融合という理念は30年前の研究科発足時に提唱され、30年の歳月を経た今でも色褪せをすることなく全国のモデルとなっています。情報系人材を中・長期的にどう考え育成していくかは大変重要な課題であり、本研究科にとって選択肢の1つとして他部局との連携による文理融合型の「情報学部」の設立が考えられます。文理を問わず、情報を如何に処理し利用するかはすべての分野にとって重要であり、このことを念頭に他学部とのWin-Win関係の構築を模索していく必要があります。

創立30年という歴史的瞬間に立ち会えた喜びを噛みしめながら時代は私達に次の間いかけをしているようにも感じます。

研究科ニュース

●主催・共催・後援行事

- 2024.2.19 第2回 量子アニーリング研究会
- 2023.9.2 第70回 情報リテラシー連続セミナーの開催について「自由進度学習で個別最適な学びに挑む」
- 2023.8.7・8 第9回 ケーススタディコンペ・東北大学・東北大学ジョイントシンポジウム
- 2023.7.26・27 東北大学オープンキャンパス2023
- 2023.7.7 人材育成プログラム「Q-Quest」の開催について
- 2023.7.1 第69回 情報リテラシー連続セミナーの開催について「フルクラウドがもたらす教師の働き方」
- 2023.6.1 地方議員のためのDXセミナー
- 2023.5.27 第68回 情報リテラシー連続セミナーの開催について「教育DXの最前線～担当課長が本音で語る」
- 2023.4.22 第67回 情報リテラシー連続セミナーの開催について「教室マルチリトメントを防ぐ」
- 2023.3.24 第2回データサイエンスカフェ
- 2023.3.13 第1回データサイエンスカフェ
- 2023.3.10 大学生向け 量子コンピューティング体験セミナー～量子アニーリングを使って身近な問題を解決しよう～
- 2023.3.9 第22回(令和4年度)情報科学研究科「学術懇話会」の開催について
- 2023.3.06 情報数理解話会
- 2023.2.19 東北大学大学院情報科学研究科シンポジウム2023の開催について
- 2023.2.18 第66回 情報リテラシー連続セミナーの開催について「子どもたちの「自律」と「協働」を支える学級経営」

●教員の受賞

- 2023.7.11 日本機械学会流体工学部門賞を受賞(山本 悟 教授)
- 2023.7.11 日本機械学会流体工学部門フロンティア賞を受賞(古澤 卓 准教授)
- 2023.6.29 ロボティクス・メカトロニクス部門ベストプレゼンテーション表彰 阿部一樹特任助教(タフ・サイバーフィジカルAI研究センター)
- 2023.6.29 ロボティクス・メカトロニクス部門ベストプレゼンテーション表彰 佐野峻輔(北海道総合研究機構・東北大学)、阿部一樹 特任助教(タフ・サイバーフィジカルAI研究センター)、渡辺将広 助教(同研究センター)、多田隈建二郎 准教授
- 2023.6.21 Wireless Broadband AllianceにてContributor Award 2022を受賞(後藤英昭 准教授)
- 2023.6.9 AMAM2023にてBest Robot Demo Award(多田隈建二郎 准教授)
- 2023.6.9 令和4年度土木学会論文賞(井料隆雅 教授)
- 2023.6.8 日本機械学会にて日本機械学会賞を受賞(田所諭 教授)
- 2023.6.7 情報処理学会東北支部野口研究奨励賞を受賞(赤間怜奈 助教)
- 2023.4.19 文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)、若手科学者賞(松宮一 助教)
- 2023.3.24 情報処理学会フェロー(北村喜文 教授)
- 2023.3.16 言語処理学会第29回年次大会(NLP2023)スポンサー賞 高電社賞(鈴木潤 教授、駒田啓伍(M1)、森下睦(NTT))
- 2023.3.16 第29回年次大会言語処理学会(NLP2023)委員特別賞(栗林樹生 特任研究員)
- 2023.3.10 言語処理学会第29回年次大会(NLP2023)優秀賞(代動 特任研究員、Benjamin Heinzerling 特別研究員、乾健太郎 教授)
- 2023.3.10 言語処理学会第29回年次大会(NLP2023)言語資源賞(赤間怜奈 助教、鈴木潤 教授、乾健太郎 教授、磯部順子(技術スタッフ・補佐員))

- 2023.1.16 第18回競基弘賞 技術業績賞(渡辺将広 助教(タフ・サイバーフィジカルAI研究センター))

●学生の受賞

- 2023.8.2 第29回博士後期課程学生発表会 ベストプレゼンテーション賞(彭 湛、韓 子暉、李云蒙)
- 2023.7.10 The 10th ACM ASIA Public-Key Cryptography Workshop (APKC 2023) Best Paper Award(四方隼人)
- 2023.7.10 Outstanding Poster Presentation Award(宮西佑香子)
- 2023.7.10 ACL 2023 SRW Best Paper Award(葉 夢宇、鈴木潤教授、舟山 弘晃、小林 悟郎)
- 2023.7.9 [RoboCup2023]世界大会にてROBOCUP2023 RESCUE ROBOT LEAGUE 3rd Place(田所・昆陽・多田隈研究室チームQuix)
- 2023.5.17 電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会 ISEC研究会活動貢献感謝状(葛馬知紀)
- 2023.5.7 ロボカップジャパンオープン2023ロボカップレスキュー・実機リーグにて、準優勝・Best-in-Class Mapping(田所・昆陽・多田隈研究室チームQuix)
- 2023.4.20 日本機械学会にて日本機械学会賞(藤田淳、大野和剛 教授(NICHe所属)、小島匠太郎特任 助教(タフ・サイバーフィジカルAI研究センター所属))
- 2023.3.24 令和4年度 総長賞・情報科学研究科賞(【総長賞】五十鈴川頼宗、高橋昌希 /【研究科賞】鋤持優人、横田将輝、八柳秀門、NGUYEN VAN QUANG、山口恭正)
- 2023.3.22 電気通信普及財団賞 テレコムシステム技術賞学生賞(橋田 紘明)
- 2023.3.16 東北地区若手研究者発表会・優秀発表賞(武元航)
- 2023.3.16 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)スポンサー賞 日本電気賞(伊藤郁海(学部4年)、伊藤拓海、乾健太郎教授、鈴木潤教授)
- 2023.3.16 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)委員特別賞(伊藤郁海(学部4年)、伊藤拓海、乾健太郎教授、鈴木潤教授)
- 2023.3.16 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)若手奨励賞(石月由紀子、栗林樹生 特任研究員、松林優一郎 教授、乾健太郎 教授)
- 2023.3.16 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)委員特別賞(松本悠太、Benjamin Heinzerling 特別研究員、乾健太郎 教授)
- 2023.3.16 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)委員特別賞(有山知希、Benjamin Heinzerling 特別研究員、乾健太郎 教授)
- 2023.3.16 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)委員特別賞(舟山弘晃、浅妻佑弥、松林優一郎 教授、乾健太郎 教授)
- 2023.3.10 インタラクティブ発表賞(一般投票)(橋 優希、藤田和之 助教、高嶋和毅 准教授、北村喜文 教授)
- 2023.3.10 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)若手奨励賞(伊藤拓海)
- 2023.3.10 第29回年次大会 言語処理学会(NLP2023)委員特別賞(佐藤志貴、赤間怜奈 助教、鈴木潤 教授、乾健太郎 教授)
- 2023.3.8 日本音響学会東北支部若手研究者優秀論文賞(沖田 歩)
- 2023.3.2 情報処理学会第85回全国大会で学生奨励賞(近藤智文)
- 2023.2.18 丹羽俊次郎記念論文賞(橋田 紘明)
- 2023.2.16 RIEC Award 東北大学学生賞(橋田 紘明)
- 2023.1.25 暗号と情報セキュリティシンポジウム(SCIS 2022) SCIS 論文賞(葛馬知紀)



情報科学研究科創立30周年記念行事

情報科学研究科の創設30周年を祝う記念行事が、7月29日(土)に情報科学研究科棟の会場とYouTube配信とのハイブリッドで開催されました。はじめに大野英男総長からご挨拶をいただき、本研究科の創設は自然科学と人文科学が融合する総合知のさがけであったこと、そして今や情報科学は現代のリテラシーであり、その果たす役割は今後ますます大きくなっていくとの展望が述べられました。続けて屋外にて記念植樹が行われ、真夏の強い日差しにもかかわらず、多くの見学者が集まりました。

特別記念講演では関西学院大学の徳山豪教授が「数理と情報で創る社会」と題して講演されました。ご自身の研究歴も振り返りつつ、数当てゲームなどのわかりやすい問題を題材にして、数学が計算機科学や情報科学の発展に役立ってきた歴史について教えていただきました。続いて徳山豪教授と本研究科の森一郎教授との記念対談が行われました。東北大学の尊重する実学とは即効性があるものとは限らず、数学や哲学のように二千年にまで渡る研究の継続性やスコレ(余暇)が大事であることが語られました。また、AIは人間を超越し、人間を用済みにするものという見方もある一方で、人間は考えることを楽しむことができ、さらには人間が持つべき「徳」についての

話題へ発展しました。

記念パネル討論「情報科学の最前線:AIの進化がもたらす人間社会へのインパクトに迫る」では本研究科の荒木由布子教授、乾健太郎教授、大関真之教授、岡谷貴之教授、細田千尋准教授がパネリストとなり、最初にそれぞれの研究の最前線について話題提供をいただきました。データを記述するための統計学の新しい潮流、ChatGPTで注目を集めている自然言語処理の最先端、量子アニーリングの最新ベンチマークや普及への取り組み、生成AIと画像認識AIの融合、脳研究に基づく学びの在り方、といった多くの興味深い話題が提供されました。

その後、司会である広島経済大学の後藤心平准教授がモデレーターとなって、パネル討論が行われました。そこではAIが生成するものに潜むバイアスや公平性の問題が取り上げられました。情報科学が人の役に立つ学問であることは確かなものの、その使い方については様々な分野の専門家同士の対話が必要との意見が多く、この記念行事を通して本研究科の使命を再確認することができました。

(応用情報科学専攻 廣田 真准教授)



▶大野英男総長のご挨拶



▶記念植樹(左から加藤研究科長、大野総長、青木理事)



▶徳山豪教授による特別記念講演「数理と情報で創る社会」



▶徳山豪教授と本研究科の森一郎教授との記念対談



▶記念パネル討論

第22回学術懇話会

尾畑伸明先生は名古屋大学助教授から2001年に東北大学情報科学研究科教授に就任されました。尾畑先生は幅広い興味と深い専門性を活かして、応用数学連携フォーラムの立ち上げや海外との共同研究プロジェクトを推進され、本研究科の発展に尽力されました。さらに、研究科長を務めると同時に全学教育改革とデータサイエンス教育プログラムの策定にあたるなど、東北大学全体に影響を与える重要な局面に関わってこられました。ご講演では無限次元解析に関係した深い純粋数学の分野の研究から出発して、いかにして量子確率論を研究の中心に据えるようになったかをわかりやすく解説していただき、あらためて大変勉強になりました。

(情報基礎科学専攻 宗政昭弘教授)



▶講演される尾畑先生



▶集合写真

専攻トピックス

情報基礎科学専攻

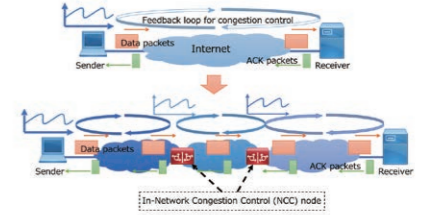
Department of Computer and Mathematical Sciences

コミュニケーション論講座の長谷川剛教授は、次世代インターネットのトランスポート層プロトコル、輻輳制御アーキテクチャとして、ネットワーク内輻輳制御 (in-Network Congestion Control: NCC) アーキテクチャに関する研究開発に取り組んでいます。

何十億ものユーザを抱え、様々な種類のトラフィックが流れるインターネットにおいて、ネットワークの輻輳(混雑)を検出・解消・回避する輻輳制御技術は極めて重要です。現在のインターネットでは、輻輳制御はネットワーク自身は行っておらず、ネットワークに接続された端末やサーバがデータ転送速度を自律的に調整することで実現する、エンドツーエンド原則に従った輻輳制御が行われています。しかし、大規模化・複雑化するインターネット環境に対応しきれないような問題が生じつつあります。

このような問題に対して、NCCは、従来のエンドツーエンド原則から脱却し、ネットワーク内に存在するノードが積極的に輻輳制御に参加する新たな輻輳制御アーキテクチャです。これにより、多様な環境におけるネットワーク資源の

利用効率の拡大、公平なネットワーク資源の利用など、現在のインターネット輻輳制御が抱える課題を根本から解決することができます。同氏は現在、NCCが潜在的に持つ性能の評価を行いながら、具体的な導入シナリオやセキュリティ問題などの、インターネットへNCCを普及するための様々な課題に取り組んでいます。



▶ネットワーク内輻輳制御(NCC)アーキテクチャの概要

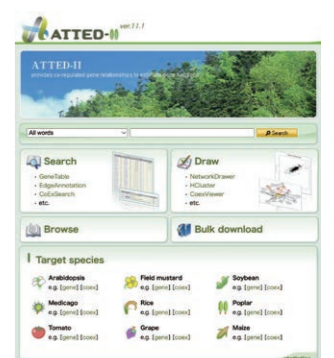
システム情報科学専攻

Department of System Information Sciences

人類をはじめとする生命体のシステムは、膨大な数の遺伝子が複雑に相互作用することで成立しています。2022年10月に当専攻の情報生物学分野に着任した大林武教授は、遺伝子の相互作用に焦点を当てることで、ゲノム上のすべての遺伝子の機能を解明する研究を進めています。

高等生物のゲノムは通常、数万の遺伝子から構成されています。遺伝子の相互作用を解析するにあたっては、集団構造の最小単位である「遺伝子ペア」に着目すると良いのですが、数万の遺伝子が作り出す数億の遺伝子ペアを理解するには大変な労力がかかります。そこで大林研究室では、大量の公共データから遺伝子ペアの情報を引き出し、その結果得られた膨大な情報を研究者が理解し活用できる形に変換するツールやデータベースを開発しています。このアプローチにより、さまざまな医学生物学研究が推進されています。

一方、地球環境を維持するため、そして環境破壊、外来生物種の問題、温暖化などの課題に対処するためには、多種多様な生物種についての理解が求められます。これまで分子生物学の研究対象でなかった非モデル生物種についても、情報科学の力を借りて研究を進める必要があります。大林研究室では、モデル生物を基点にして地球上の全ての生物種の研究のための基盤を作り上げ、それを通じて医学、農学、環境科学などの分野に貢献していきます。



▶遺伝子共発現データベースATTED-II

人間社会情報科学専攻

Department of Human-Social Information Sciences

2023年4月より、言語情報学研究室に齊藤いつみ准教授、論理分析学研究室に大森仁准教授が着任しました。

齊藤准教授の専門は自然言語処理や機械学習、人工知能に関わる研究で、特に現在は深層学習を用いた言語理解・生成の研究に取り組んでおり、与えられた指示に従って出力を制御可能な文書生成システムの研究を行っています。また、テキストに加えて画像や音声の入力も理解可能なマルチモーダルモデルの研究も行っています。例えばレイアウト情報が含まれた文書画像やプレゼンテーションの高度な理解など、人同士のコミュニケーションで利用される様々な形態の入力の理解を目指します。様々なモーダルの入力や言語的な指示を理解して文章を柔軟に生成・編集できるシステムの構築を通して、人とAIが高度に協働可能な社会の実現を目指しています。

大森准教授の専門は論理学で、特に非古典論理の中でも矛盾許容型論理(Paraconsistent Logic)やConnexive Logicについて、哲学的な動機を踏まえて、数学的な方法も利用しつつ、情報科学も射程に入れて研究しています。矛盾許容型論理は、西洋哲学においてアリストテレス以来堅持されてきた無矛盾律

盾律に対峙する立場として知られる真矛盾主義(dialethesim)が一つの哲学的な動機として据えられており、そのような立場の形式的な側面について研究しています。また、Connexive Logicはアリストテレスやボエティウスといった古代・中世の哲学者の、特に否定と含意の関係についての主張を検討することを目的としており、情報科学と密接に関わりのある多値論理や直観主義論理との関係に着目しています。



▲プレゼンテーションからの情報抽出・要約生成のイメージ



▲論理学分野における国際学術誌

応用情報科学専攻

Department of Applied Information Sciences

人間ロボット情報学分野およびタフ・サイバーフィジカルAI研究センター(兼任)の多田隈建二郎准教授は、ロボット分野の中でも、一貫して「機構」の研究開発・教育に従事しています。任意方向に推進力を生成する球状全方向車輪をはじめとして、「点・線・面」と接触対象に対する接触状態の次元を上げながら拡張的にテーマ展開を行ってきました。

球状全方向車輪の最大の特徴は、この車輪機構を構成する半球形状を有する受動回転車輪にあります。この半球状受動回転車輪は、その直径が球状車輪モジュール全体の大きさと同等であるため、従来方式では達成し得なかった高い段差・溝踏破能力の実現を可能にしました。つづく、円状断面クローラは、この球状全方向車輪を点だと考えて、それを回転軸方向にまで引き伸ばした構造に位置づけられる。断面が円状の駆動構造であり、その中央にクローラユニット全体の回転軸を有します。この回転軸を能動回転させることにより、横方向への能動的な移動が可能になります。

また、地上のみの移動に限らず、図1に示すように、この球状車輪の内側をくり抜いて球殻構造とし、プロペラガード兼、着陸時の衝撃を抑え、壁面や天井面から一定の距離を保ちながら点検や打音などの作業を可能とする飛行体にまで発展させています。さらには、円状断面クローラの理想構造である、円環を軸方向に引き伸ばしたトーラス構造において、先端の半球状部分の駆動方向を、これまで内側から外側にしていたものを、逆向きにあたる外側から内側向きに変えることで、これまで、外部環境としての凹凸不整地に形状適応していたものを、様々な形の対象物を把持することが可能なハンド機構(図2)にまで拡張させています。

以上のように、ロボット分野の中でも、その基盤である機構の研究は、学術への貢献のみならず、極限環境での探査・作業にも貢献できる非常に有用な位置づけのものであり、今後もさらなる発展が期待されます。



▶図1: 球殻ロータ機構を搭載した飛行体



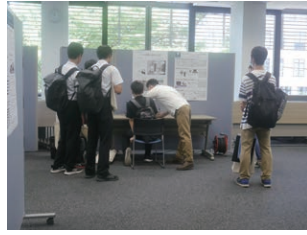
▶図2: 耐火性グリップ機構

東北大学オープンキャンパス2023

令和5年7月26日(水)、7月27日(木)に「東北大学オープンキャンパス」が開催されました。コロナ禍前の2019年度から4年ぶりの通常開催となり、2日間で合計673人の高校生や保護者の方々にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

当研究科では、パネルポスターを使用して研究内容の紹介や河村和徳准教授によるイベント「インターネット投票を体験してみよう」を実施し高校生に実際のインターネット投票体験を通して、インターネット投票の課題を考えてもらいました。

この度は、ご来場いただき誠にありがとうございました。今後もさまざまなイベントを通じて、研究・学習の魅力を広く発信してまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



学生の声

人間社会情報科学専攻 原研究室 博士後期課程1年

稲垣 和哉さん

昨年、約4年間働いた会社を辞め、博士課程に進学をしました。久しぶりに学生となって一年ほどが経ち、この間感じたことを述べたいと思います。

会社員時代は、まちづくり・都市計画コンサルタントに勤務し、行政計画の策定から商店街の振興・社会実験まで様々なスケールの仕事に関わっていました。ようやく仕事にも慣れてきたところだったのですが、プランナーのセンスだけではなく、数理的な分析をもとにしたプランニングのため、新たなスキルの習得の必要性を感じました。さらには、コンフォートゾーンに入ってしまったという自覚もあり、成長できる環境を求めて、30歳を過ぎて再び大学へ戻ることに決めました。

博士課程に進んでからは、計画技術の根底となる「予測」に着目し、予測するという行為が社会システムに与える負の影響について研究を進めています。スマートシティなどのように、まちづくり・都

市計画分野も情報技術の進展やその社会的受容とは無関係ではいられず、情報科学、社会学など他分野と積極的に接続していく必要性を感じています。

私の場合、このような問題意識は学生時代には持たなかった(持てなかった) だろうと思います。学生時代は、もっとナイーブに自身の生活の周辺に関わる小さな問題について強い関心を持っていたように思います。一度会社に勤め、様々な立場の人や現場に関わったことで視野が広がったのだと思いますが、その時に反応したものを考えたことが、今になってこのための伏線だったんだなと思えることも多々あり、遠回りしたメリットを感じたりしています。

30歳を過ぎても、自分が興味を抱いているものは何か、何を明らかにしたいのか日々問いかけ、言語化を試みる毎日です。日々研究に集中できる環境に感謝しつつ、悔いのないように過ごしていきたいと思っています。



国際交流推進室

国際交流推進室の紹介

国際交流推進室の湯田恵美です。

工学研究科 電気エネルギーシステム専攻 助教、データ駆動科学・AI教育研究センター 助教を経て、2023年4月より着任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

国際交流推進室では、国際的なイベントやプログラムの開催など、留学生との相互理解を深めるためのさまざまな活動を行っています。留学生・海外派遣学生のサポートをはじめ、留学生たちが快適に過ごせる環境を提供する役割も担っています。

AIQDS(AI, Quantum Computing, Data Science)プログラムとデータ科学国際共同大学院の運営サポート、オンライン教育コンテンツの作成などを行っており、田中和之 教授、山田和範 教授、Samy Baladram 特任助教、Choilek Siwalee 特任助教をはじめとして、多くの教職員の皆様のサポートのもと運営しております。本当にありがとうございます。

是非、国際交流推進室に足を運んで、新しい体験や交流の場を楽しんでいただきたいと思います。

研究 × 国際交流

私(湯田)は、生体システム情報学講座 情報生物学研究室を兼任しており、一貫して生体信号処理と生体ビッグデータ解析の研究に取り組んでおります。学内外の多くの研究者や企業の皆様のサポートをいただき、研究を進めております。国際共同研究を中心とした国際交流は刺激的な仕事のひとつです。

実は、工学研究科時代からMIRA2.0プロジェクトのAI TEG (Thematic Expert Group) 本学代表を務めております。MIRA2.0は、研究、教育、イノベーションと次世代

育成を通じてスウェーデンと日本の大学をつなぐことを目的に、本学は2020年より参画し、研究コラボレーションの発展・展開を目指しています。Materials Science(材料科学)、Sustainability(持続可能性)、Ageing(高齢化)、AI(人工知能)、IEAG(Innovation and Entrepreneurship Advisory Group)の分野において協働を深めています。

国際交流推進室の業務と研究活動の両方を行っています、両者が繋がるところが多いと感じています。



◀Materials Scienceの高田昌樹教授(国際放射光イノベーション・スマート研究センター)、IEAGの本間経康教授(多元物質科学研究所)、Ageingの高橋博教授(歯学研究所・研究科長)らとスウェーデン大使館レセプションにて、東北大チームは仲良く、楽しく飲んでいました(笑)今年11月のR&I(国際会議)では、本間教授らのグループとセッションを企画中です。



▲高田昌樹 教授のサポートで共同研究企業の皆様とナノテラスを見学させていただきました。G7が行われた場所で記念撮影!お忙しいところ対応いただきましたナノテラスの皆様へ感謝!



▲工学研究科 吉澤研究室出身教員の集まり。本間経康教授(医学工学研究科)、田中明教授(福島大学 副学長)など活躍している先輩教員が集合!どんなことも相談できる仲間が近くにいることが幸せです。



東北大学 情報科学研究科 ニュースレター
NEWS LETTER vol.23

【編集・発行】

東北大学 大学院情報科学研究科 広報室 E-mail : koho@is.tohoku.ac.jp
〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号09
TEL:022-795-4529 FAX:022-795-5815 https://www.is.tohoku.ac.jp/



このパンフレットは「水なし印刷」により印刷されています。



環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷されています。